

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	④障がい福祉	①	障がい者の日常生活及び社会生活に対する総合的な支援

事業名	住宅改造助成事業	担当課名	障がい福祉課
-----	----------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
障がい者の生活環境の整備のため、日常生活の最も基礎となる住宅の改造に必要な経費を助成することで、障がい者の生活の利便の増進を図ります。
(事業概要等)
在宅の重度障がい者が住み慣れた地域で自立し、安心して生活ができるよう、日常生活の最も基礎となる住宅の改造に必要な経費を助成します。

【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	100	196	726	600	
うち市負担分(千円)	52	99	365	300	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値
住宅改造助成制度利用件数	件	1	1	5	3
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
住宅改造費用の助成により、在宅の重度障がい者が住み慣れた地域で暮らし続ける居住環境の整備を図ることができた。					

【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	
--------------------	--

【事業の課題】

課題・問題点	特筆すべき課題(問題点)はない。
--------	------------------

【事業の評価・方向性】

担当課の評価	A 現行どおり
上記評価理由および今後の方向性	府補助金制度と連携し、障がい者が自宅で安心・安全に暮らすための補助事業であり、ニーズがあることから、現行通り事業を行うことが必要である。申請内容について障がい状況によりさまざまであり、対面で相談を受けながら進めていくため、オンライン申請にもなじまない事業である。

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	④障がい福祉	①	障がい者の日常生活及び社会生活に対する総合的な支援

事業名	身体障がい者自動車改造助成金	担当課名	障がい福祉課
-----	----------------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
障がい者の就労環境の整備のため、通勤等に利用する自家用車の改造に必要な経費を助成することで、障がい者の経済的自立を図る。
(事業概要等)
身体障がい者が就労等に伴い自動車を改造する場合、その経費を助成する。

【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	0	100	0	300	
うち市負担分(千円)	0	100	0	300	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値
自動車改造費用助成制度利用件数	件	0	1	0	1
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
令和5年度は実績が0件であるが、相談が2件あり。					

【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	
--------------------	--

【事業の課題】

課題・問題点	特筆すべき課題(問題点)はない。
--------	------------------

【事業の評価・方向性】

担当課の評価	A 現行どおり
上記評価理由および今後の方向性	障がい者が就労のため自ら所有する自動車を改造することに対する助成を行うことは、障がい者の自立に向けた支援のために必要と考えられるため、継続が望ましい。申請においては、障がいの状況により内容が違い、図面を含め対面で相談しながら進めていくものなので、オンライン申請はなじまないと考えられる。

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	④障がい福祉	①	障がい者の日常生活及び社会生活に対する総合的な支援

事業名	福祉タクシー事業	担当課名	福祉タクシー事業
-----	----------	------	----------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
在宅の重度心身障がい者(児)の生活行動範囲の拡大と社会参加を促進し、重度心身障がい者(児)の福祉の増進を図る。
(事業概要等)
在宅の重度心身障がい者(児)に対し、タクシーの利用料金の一部(初乗り運賃相当分)を助成する。

【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	10,969	10,824	9,064	14,254	
うち市負担分(千円)	10,969	10,824	9,064	14,254	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値
タクシー券利用件数(枚数)	枚	16,219	16,011	14,114	15,000
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
タクシー利用料金の一部助成により、在宅の重度心身障がい者(児)の外出を促進することができた。 なお、近年の利用数の減少については、コロナウィルス感染拡大防止の為、社会全体として移動(外出)が抑制されてきた影響が残っていること、タクシー運賃の値上げ等が要因として考えられる。					

【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	
--------------------	--

【事業の課題】

課題・問題点	特筆すべき課題(問題点)はない。
--------	------------------

【事業の評価・方向性】

担当課の評価	A 現行どおり
上記評価理由および今後の方向性	障がい者の社会参加のための支援策として一定のニーズがあり、着実に実績を積み重ねてきた事業である。 今後全国的に障がい者手帳がデジタル化した場合の本事業運用について検討していく。

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	④障がい福祉	③	障がいに対する理解を深める市民意識の醸成

事業名	身体障がい者福祉大会等実施事業	担当課名	障がい福祉課
-----	-----------------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
障がい者の学習・活動機会の充実のため、各種イベントへの支援を行い、障がい者の自立と社会参加の促進を図る。
(事業概要等)
<small>1. 身体障害者福祉大会 身体障がい者の活動の促進及び相互の親睦を図り、その福祉を増進することに資する行事を実施する。 2. 障がい者レクリエーション大会(泉大津市ふれあいキャンペーン実行委員会主催) 春のイベントとして模擬店、バザーを中心とする「ふれあいフェスタ」を、秋のレクリエーションとして障がい者のグラウンド・ゴルフ大会と軽運動会の二部構成による大会を実施する。 3. 泉大津ふれあい大会(泉大津市ふれあいキャンペーン実行委員会主催) 12月3日～9日までの「障害者週間」中に、障がい者への理解を深める式典、イベントを開催する。 4. 阪南地区身体障害者スポーツ・レクリエーション大会 泉州8市4町の身体障害者福祉会にて構成する阪南地区身体障害者連絡協議会主催による、秋のスポーツ・レクリエーション大会に参加する。</small>

【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	54	296	649	1,847	
うち市負担分(千円)	14	75	163	462	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値

(指標を設定できない理由)

各イベントへの正確な参加人数の把握が困難なため。

(成果の概要)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため3年間中止となっていたふれあいフェスタ及び障がい者レクリエーション大会を開催し、障がい者が笑顔で参加する様子がみられた。ふれあい大会についても同様に参加者が事業所での成果を発表することができた。これらにより、障がい者の社会参加と障がい者週間としての啓発につながった。

【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	長期中止となっていた事業の再開を目標として、安全面に配慮しつつ対面による活動推進を図った。
--------------------	---

【事業の課題】

課題・問題点	障がい者の福利厚生、社会参加のための事業として長い歴史があり、これまで一定の成果を上げてきた。一方で参加団体の固定化や参加者の高齢化などの背景から、大きな広がりがない状況である。
--------	---

【事業の評価・方向性】

担当課の評価	B 改善し継続
上記評価理由および今後の方向性	<p>障がい者の社会参加のためのイベントとして一定のニーズがあり、着実に実績を積み重ねてきた事業である。ふれあいキャンペーン実行委員会に参画してる団体・事業所に長年変化がなく、またここ数年団体数が減っていることから、取組内容の再考と市内事業所等に広く呼び掛けて輪を広げ、事業の発展的継続と障がい者が地域でいきいきと暮らすことができる地域づくりについて再考する必要がある。</p> <p>阪南地区身体障害者スポーツ・レクリエーション大会については参加者の固定化・高齢化等の課題があり、他市と協議し方向性を検討している状況である。</p>

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	④障がい福祉	③	障がいに対する理解を深める市民意識の醸成

事業名	団体等育成支援事業(障がい福祉課)	担当課名	障がい福祉課
-----	-------------------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
障がい者の総合的な支援体制の整備のため、障がい者関係団体の活動を支援し、障がい者への支援体制の整備・充実を図る。
(事業概要等)
身体障害者福祉会及び精神障害者家族会に対する活動運営補助金

【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	150	150	194	461	
うち市負担分(千円)	150	150	194	461	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値
(指標を設定できない理由)					
本事業は団体への事業補助であり、各年度の取組みに差異があり、画一的な数値化になじまないため。					
(成果の概要)					
障がい者の総合的な支援体制の整備のため、身体障害者福祉会及び精神障害者家族会の活動を支援することにより、身体障がい者及び精神障がい者への支援体制の充実を図ることができた。					

【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	
--------------------	--

【事業の課題】

課題・問題点	特筆すべき課題(問題点)はない。
--------	------------------

【事業の評価・方向性】

担当課の評価	A 現行どおり
上記評価理由および今後の方向性	障がい者の総合的な支援体制の整備のため、引き続き障がい者関係団体の活動を支援する必要があるため。

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	④障がい福祉	③	障がいに対する理解を深める市民意識の醸成

事業名	暮らしやすい地域づくり推進事業	担当課名	障がい福祉課
-----	-----------------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
事業者に求められる社会的障壁の除去に係る必要かつ合理的な配慮について、その提供に要する費用の全部又は一部を助成することにより、事業者が合理的な配慮を行いやすいように支援し、もって誰もが暮らしやすい地域づくりを推進する。
(事業概要等)
泉大津市内において、飲食、物販、医療など、不特定多数の人が利用する事業を行う事業所等を対象に、お店など不特定多数の人が出入りする事業所に対し、(1)コミュニケーションツールの作成、(2)物品の購入、(3)工事施工費にかかる費用の10割を、助成限度額までの範囲で助成し、協力事業所は市HPなどで紹介する。

【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	—	—	2,494	4,890	
うち市負担分(千円)	—	—	623	1,222	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値
申請件数(実数)	件	—	—	18	19
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
市内事業者等が本事業を利用したことにより、スロープや筆談ボードの購入、手すりの設置等により、高齢者・障がい者等が店舗など事業所を利用しやすい環境が整備され、市民が市内を外出しやすくなると同時に、合理的配慮の提供に関する理解啓発が広がっている。					

【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	令和5年度新規事業
--------------------	-----------

【事業の課題】

課題・問題点	制度の周知をすすめ、本制度の利用を促すことを通じて障がい者等への合理的配慮の提供に関する理解をより広げることが大きな課題である。
--------	--

【事業の評価・方向性】

担当課の評価	A 現行どおり
上記評価理由および今後の方向性	現在のところニーズがある事業である。本市障がい者計画でのアンケートでは、合理的配慮の提供について市民的な周知度がまだ低い状況であることから、本事業を通して障がい者への理解や合理的配慮の提供に関する意識を醸成するとともに、障がい者・高齢者にとって利用しやすく、外出しやすくなる地域づくりを進めていく。